

リスクとリターンをどのようにつ考えればよいか？

知っていたらそうでも知らなかった

「Risk」と「Danger」の違い

最後に、投資信託を購入しようとする人が、一番不安で気にかかる「リスク」について考えてみましょう。つまりまでもなく、「MMF」や「中国ファンド」でも常に元本が割れる可能性は存在します。また今の世にはどんな金融商品を利用して、避けて通れないのがリスクです。もともと護送船団方式の金融業界に慣れ親しんできた日本人にはリスクというものに馴染みがなく、預けたお金が元本割れするということは考えにくいし、「リスクがある」と聞いただけで腰を引いてしまいそうになります。

一般的に「Risk(リスク)＝危険」といわれているので、自分の趣味と一緒に楽しめる仲間がいる地域を選ぶとか、いまから近くに畑を借りて野菜などを栽培して自然に慣れておこうとか、何らかの対策を考えておけば、先々の不安が少なくなりそうです。

リスク低減には三つの法則がある

同じように、これから購入を考えている投資信託にはどのようなリスクがあるのかまず考え、それはどんな状況でどの程度の大きさで発生するかを事前に知っておきましょう。そうするだけでリスクに振り回されることがなくなるはずですよ。

また、最悪の場合を想定しておくことも大切です。投資信託の場合、最悪は投資した元本がゼロになることです。投資した金額以上に損は発生しません。1万円投資すればどんなに悪くても1万円の損で済むという事です。まさに当たり前のことですが、逆にいえば、投資した金額以上にリスクは発生しないわけですから、

ですが、本当にそうでしょうか？ 確か中学校の授業では「危険＝Danger(ディンジャー)」と習ったはずですよ。では「Risk(リスク)」とはどついつの意味かを調べてみますと、危険は危険でも、損害がある程度予測可能な危険」という意味なのです。「予測可能な危険」ならばその危険を予測して、できるだけ危険を小さくすればいいのです。

こう想定してみてください。あなたが定年前に早期退職をして田舎暮らしをしようとしています。普通なら実行する前に、田舎暮らしの具体的なメリットやデメリットをいろいろ想定してみましょう。ここでいうデメリットが「リスク」にあたります。例えば田舎に行くと友人ができなかつたらどうしよう、自然に囲まれた生活が自分に合っていなかつたらどうしよう、などです。そこで実行する前に、リスクが起こった時の対応から、初めて投資する際には、目減りしても自分で納得のいく金額から始めることです。

ここで、「リスク低減の3つの法則」を紹介しておきましょう。

長期投資：長期にわたって保有することにより、金額と時間の両方のリスクに備えるということです。

分散投資：世界型や国内型などいろいろな種類の投資信託を購入して、リスクに備えるということです。

積立投資：毎月積立をすることによって、時間を分散しリスクに備えるということです。

この3つを守れば、ほとんどリスクには対応できるでしょう。是非心がけてみてください。

最大のリスクは

投資信託を購入しないリスク！？

投資信託のリスクは価額の上ばかりではありません。「投資信託を利用しないリスク」というものも存在

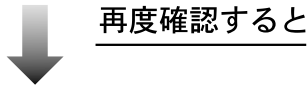
リスクとリターンの考え方とは？

リスク = Risk ●● ▶ 危険！

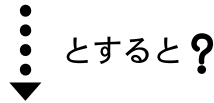
本当？

確か中学英語では

危険 = Danger (ディンジャー)



Risk とは予測可能な危険



予測して備えられれば恐くないかも！

リスク低減の3つの法則

- ① 長期投資………長期間に渡り投資することで、価額と時間の両方のリスクに備える
- ② 分解投資………グローバル型や国内型などいろんな投資を購入してリスクの分散
- ③ 積立投資………毎月積立して時間を分散し、リスク低減

在します。長期で見れば、経済は成長して行き、物価が上がっていきます。つまりインフレ率が上昇していくという事です。そして、自分の資産をタンス預金している、金額は減らなくても着実に価値が目減りしていきます。景気が悪く、ディスカウントストアが流行る時代には、「インフレ」とか、物の値段が上がるとかいわれても「んときませんが、私たちがより良い日本に住みたいと思っっているならば、物価が上昇する可能性は十分にあります。つまり「デフレ」といわれる時代にこそ、将来のインフレ到来のために資産運用について考える時なのです。

物価が上がることに對する資産運用の対応策は、インフレ率以上の運用実績をあげることです。預貯金の金利は、実は、このインフレ率とほぼ同じ程度に設定される特長があります。したがって、預貯金では長期に物価が上がった場合それに勝つことはできません。物価上昇に勝てる運用商品で最も身近なものが株式です。しかし、株を購入するにはまとまった資金も必要です。株に対する知識も必要です。そのために、投

投資信託が存在するのです。

意外に思われるかもしれませんが、なんにもせずじっとしていることもリスクです。10年後、いざ、何かをしようと思ったときに資金がなかったと嘆いても既に遅いということなのです。目的のあるなしに関わらず、預貯金の他に、効率的に資産を増やせる運用方法に慣れ親しんでおくことも、一つのリスク管理の方法なのです。

最後に、有名な学者の言葉をあげておきましょう。

「お金を貯めて大金持ちになった人はいない。大きな不均等のある部分で事業を始め、投資を進める機会を生み出したものが大金持ちになる。」(レスター・C・サロー)

よくハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターンといわれますが、「リスクと取れば必ずリターンがある」ということだけは、確かなことです。さあ、あなたも本当に貯金だけで大丈夫ですか！もう一度考えてください。